

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方針
<p>○めざす学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく活気に満ちた学校 ・地域・保護者に信頼される学校 <p>○めざす子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲良く、助け合う子ども ・よく考え、学び合う子ども ・たくましい心と体をもった子ども <p>○めざす教員像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間性豊かで、協調性を備え、チーム城南を支える教員 ・教育専門職として指導力を身に付け、教育愛に燃える教員 	確かな学力の定着と向上	<ul style="list-style-type: none"> ・考えをもつための書く活動や考えを深めるための話し合う活動を充実させる。 ・学年、学級を分割した少人数指導やTTによるきめ細やかな指導に力を入れ、学力の二極化を解消する。 ・家庭と連携して家庭学習の充実を図るとともに、進んで自学や読書に取り組む子どもを育てる。 	
	豊かな人間性・社会性の涵養	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで挨拶をし、相手の立場を思いやる言葉遣いができるようにする。 ・Q-Uアンケートやいじめアンケートなどを実施することにより、いじめのない一人ひとりが生かされる集団づくりを行う。 ・不登校傾向児童の解消に向けて、SCやSSW、関係諸機関等と連携した組織的な支援を行う。 	
	信頼される学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりを定期的に発行したり、学校ホームページを更新したりして、学校としての考えや子どもの状況を積極的に発信する。 ・家庭訪問や面談などを通して、保護者と日常的な連携を図る。 ・学校行事の際などに保護者アンケートを実施することにより、ニーズを把握しながら取組を改善する。 	
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
<p>確かな学力の定着と向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」と「まとめ」を明確に位置付け、一人ひとりの子どもが見通しをもって生き生きと学ぶ授業づくりを行う。 ・自分の考えをもたせるための書く活動、考えを深めるための話し合う活動を位置付ける。 ・家庭・地域と連携して家庭学習の充実を図るとともに、放課後補充学習の推進と支援を行う。 ・全国や福岡市の学力調査において、昨年度の結果と比較して評価ポイントを維持、向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」と「まとめ」の位置付けについては、93%の教職員が「できている」と答えており、今後一人ひとりの子どもに見通しをもたせた授業づくりまで高められるよう支援する。 ・社会科、生活科を中心教科として、いろいろな教科等で書く活動や話し合う活動に重点的に取り組んできた。少人数グループでの交流を通して、考えを深めようとする子どもの姿が見られた。 ・放課後補充学習を6月から開始し、計画的に実施してきた。家庭学習で自学を行うことに更に力を入れたい。 ・全国や福岡市の学力調査において、国語、算数、理科のすべての項目で「やや上回っている」以上になった。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動部と生徒指導部の連携により、児童会を中心とした「あいさつ運動」などの自主的な取組を計画的に推進する。 ・定期的に各種アンケートを実施することにより、児童の学校生活の状況を把握し、組織的な改善の取組を行う。 ・不登校傾向児童の解消に向けて、SCやSSW、関係諸機関等と連携した組織的な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“全全全力 城南小”の児童会スローガンのもと、授業、生活、行事の3点から取組を進めてきた。挨拶については、生徒指導部でも話題にしなが、指導を継続してきた。 ・Q-Uアンケートだけでなく、「困っていること」アンケートや「明るい学校をめざして」アンケート(いじめアンケート)を定期的実施することにより、児童の実態を把握し、改善の取組を行ってきた。 ・担任、養護教諭、管理職が連携しながら、児童の欠席、遅刻の状況を毎日把握し、個に応じた支援を行ってきた。SCやSSWとは日常的に、区子育て支援課やえがお館等とは必要に応じて連携し、組織的な支援を行っている。 	
	0		
<p>信頼される学校づくりの推進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校だより」や「学年だより」を毎月発行することにより、学校としての考えや子どもの状況を積極的に発信する。 ・定期的家庭訪問をきっかけとして、必要に応じて不定期の家庭訪問や面談を行い、保護者と日常的な連携を行う。 ・保護者アンケートを実施することにより、ニーズを把握しながら取組の推進に活かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・学級だよりについては定期的に発行できたが、学校だよりの定期的発行や学校ホームページの更新については不十分であった。 ・案件や連絡内容に応じて、手紙、電話、学校面談、家庭訪問などの手段を選択し、保護者と日常的にコミュニケーションを図ることができるよう努めてきた。 ・学校の諸行事において保護者アンケートを実施することにより、ニーズを把握しながら取組の改善に努めてきた。 	
	0		
	学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)		
<ul style="list-style-type: none"> ・できる限り授業参観を心がけてきた。どの学級も「めあて」と「まとめ」を明確にして授業を進めていて、子ども一人ひとりが45分間の見通しをもって学習内容を理解していた。 ・話を聞く態度が徹底されている。ゲストティーチャーとして話をしたが、よく手を挙げ質問が多かった。教科の学習だけでなく、各学年の行事でもよく力を発揮している。 ・学級全体での話し合い活動だけでなく、少人数グループでの話し合いや個別指導も行われていて、様々な子どもに対応できているように感じた。 ・中学校からも小学校でよく育ててもらっているという話を聞いた。 			